

### Race Report

AUTOBACS SUPER GT SERIES Round.6 Suzuka 1000km

August 26-27 2017



痛恨のペナルティ。勝てるはずだったレースが悔しい10位に

Qualify : 10th (1' 59" 175) Race : 10th (158 Laps)

勝利を狙えるピースを揃えつつも、第2戦以来なかなかすべてのピースがかみ合わずにいるD'station Racingは、SUPER GTのシリーズ天王山と言える第6戦鈴鹿1000kmに臨んだ。今回は藤井誠暢のパートナーとしてスヴェン・ミュラーが第2戦以来の復帰となったが、事前の公式テストでもいい感触を得ており、好結果が期待された。

迎えた8月26日(土)の予選日は、朝方雨が降ったものの、少しずつ路面が乾いていく状況。藤井、ミュラーのふたりは精力的に走行を重ね、最後は本気のアタックをしなかったものの、1分59秒400というタイムで2番手という好位置で走行を終えた。藤井の手ごたえは「今季でいちばんいい」というものだった。

ただ午後の公式予選では、藤井がQ1を、ミュラーがQ2を担当した。僅差のGT300においては、抜群の仕上がりをみせるD'station Porsche、そして藤井をもってしてもQ1突破は至難の業。実際、Q1では藤井が1分59秒564をマークするものの、13番手。Q1突破はしたが非常に際どいところであった。Q2ではミュラーも藤井の奮闘に応え、1分59秒175を記録。今季ベストの10番手を獲得した。

ポルシェ911 GT3 Rは、どちらかといえば予選一発よりも、決勝で高いペースで走ることが得意。そして、今回の決勝は長丁場。D'station Porscheの仕上がりもよく、グリッドも好位置。チームは確実に勝利を狙える手ごたえを得て、8月27日(日)の決勝日を迎えた。

4万5000人もの大観衆を迎えた決勝のスタートドライバーは藤井。序盤から耐久レースとは思えぬ混戦が展開されるなか、藤井はタイヤの内圧に苦しみながらも、4番手まで順位を上げていき、ミュラーに交代。藤井の指摘により内圧も適正化され、ミュラーも表彰台圏内をうかがう走りをみせていた。

しかし、好事魔多し。競り合いながらヘアピンコーナーに差しかかっていたミュラーは、前走車に邪魔され、ポストに出されていた黄旗を確認できず、周回遅れを抜いてしまったのだ。アンラッキーだったが、これによりD'station Porscheには、ペナルティストップ10秒が課せられてしまった。静止時間を含め、ロスタイムはおよそ1分。D'station Porscheは優勝争いから大きく遅れることとなってしまった。

さらに、このペナルティによって作戦の変更が余儀なくされたが、これがピットインのタイ

ミングをベストなものからずらしてしまう。特に2回目のセーフティカーでは、藤井はガス欠に見舞われてしまう恐れすらあった。ピットに戻ったとき、燃料残量は残りわずか2ℓだったのだ。

展開に恵まれないレースとなったが、その後もタイヤ交換を減らしたりと可能な限りの作戦を駆使してポジションを上げ、藤井とミュラーはその後もハイペースで粘りの走り続けた。チームも抜群のピット作業で走りに応え、最後は前を行くライバルの脱落もあり、10位でフィニッシュ。2ポイントを獲得した。

しかし、終わってみれば優勝車とのタイム差は1分18秒。レースにもしもは禁物だが、もしペナルティがなく、作戦変更もなく当初のストラテジーで走りきった場合、計算された順位は1位——つまり、優勝だった。いかにアンラッキーなペナルティだったとはいえ、レース後、ミュラーは自らのミスを大いに悔やんだ。

しかし、そんなミュラーもD'station Racingの勝利のために選ばれた大切な“ピース”のひとつだ。今度こそ、みんなで勝利をつかもう——。チームメンバー全員が、次戦タイでのリベンジを誓った。それができるだけ速さは、今のD'station Porscheにはある。





### Satoshi Hoshino Team Principal

今回のレースは走りをはじめから調子が良く、チームスタッフも頑張っているフルマに仕上げてくれたと思います。予選でも今シーズン最高のグリッドでしたし、藤井選手の最初のスティントも、その後のスヴェン選手のスティントもすごくペースが良かったので、ペナルティが悔やまれます。でもこれもレースですし、チーム力なので、残り2戦でさらにチーム力に磨きをかけて、このメンバーで優勝という結果を残せるようにがんばりたいと思います。応援ありがとうございました。



### Kazuhiro Sasaki General Manager

土曜日の公式練習からクルマの調子がいいとドライバー、スタッフからも聞いていましたので、個人的にもすごく期待をしていたレースでした。実際にレースでも、ライバルたちに比べてペースも良かったですし、今までのレースでも決勝ではポルシェが強いのは分かっていたので、結果的に10位というのは悔しいところです。今シーズンの残り2戦でなんとか優勝できるように、チーム、ドライバーみんなになんとか頑張ってもらいたいですね!



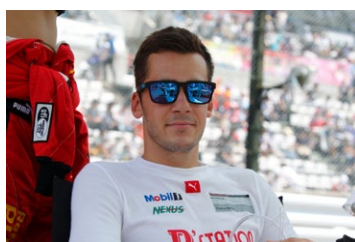
### Toshiaki Takeda Team Director

このレースはJAF-GT勢が予選では確実に上位を占めるレースでしたが、ドライバーふたりとも頑張ってくれて、予定どおり10番手からスタートすることができました。レースでも非常に速いペースで期待はしていたのですが、一度のペナルティにより挽回できない状況に陥ってしまいました。チーム全員がその後もミスなく作業をしてきて、結果的に最低限のポイントを獲れましたが、表彰台は獲れたレースだったので、悔しいのは間違いないです。こういうミスをひとつでもなくし、残り2戦を頑張りたいと思っています。



### Tomonobu Fujii Driver

結果は10位ですが、今回のレースはチームがいいクルマを用意してくれましたし、ヨコハマタイヤも抜群に良かったです。レース序盤も順位を上げられましたし、その後もペースはものすごく速かった。実際、優勝できたチャンスはあったと思います。スヴェン選手のペナルティで作戦も変更してしまったことがマイナス方向でした。当初の作戦どおりに走っていればトップ争いは間違いなかった仕上がりがだったので、今回は悔しすぎるレースでしたね。好調なのは間違いないので、次戦頑張りたいと思います。



### Sven Müller Driver

決勝レースまでは、初めての鈴鹿でいいレースウィークを送れたと思う。予選はチームにもいい結果だったと思うし、最大限のアタックができたと思うよ。レースではクルマもすごく良かったし、何台かオーバーテイクもできて、表彰台、そして優勝もできると思っていたんだ。でも、前と横のクルマの影に隠れていた黄旗を見逃してしまったのは完全に僕のミスだ。それによって10秒ストップのペナルティを受けてしまった。その後もリカバリーできたけど、10位という結果は本当に悔しいし、チームに申し訳ないよ。



### Porsche Carrera Cup Japan

SUPER GT第6戦と併催されたポルシェ カレラカップ ジャパン第8戦に参戦した星野敏は、見事3位でフィニッシュ! 今季初の表彰を獲得してみせた。



Official Website : <http://dstation-racing.jp>

Facebook : <http://fb.me/DstationRacing>

